

[現用米軍装備カタログ]

The Equipments of the U.S. Force

海兵隊装備

2006年海兵隊支給防弾ベストMTV (Modular Tactical Vests)特集

●本文：オールドソルジャークラブ ●撮影：山崎 学 ●解説：Cボーイズ ●モデル：高知ボンバーズ
●協力ショップ：LAZY CAT (<http://lazycat.jp/>)、キャプテントム (<http://www.captaintoms.co.jp/>)

MTV完璧が故の悲劇

「Marines want their MTV (海兵隊員はMTVを欲している)」

沖縄駐留合衆国海兵隊員向けの新聞である『OKINAWA MARINE』2007年4月6日号の一面記事だ。キャンプ・フォスター所属の第3海兵兵站群第3戦闘兵站連隊第4戦闘兵站大隊が海兵隊に採用された次世代ベストであるMTV (Modular Tactical Vests) 6万着の内の最初の1,000着を受領したという記事だ。MTVのデザインはTAG

社 (Tactical Applications Group) のC.J. クインラン氏、製造はPPI社 (Protective Products International) で、約20社の競合企業の中から選ばれた。海兵隊員はMTVの構成、着用や手入れ方法等について約3時間の講習を受けなければならない。

この日は直接クインラン氏を含むTAG社とPPI社のトレーナーから受講だったが、そのトレーナーの育成も行なわれた。さらにはカリフォルニア州キャンプ・ベンドルトンとノースカロライナ州キャンプ・レジューンにはコールセンターまで設けられているとのこ

とだ。隊員の命を守る新装備に関わることであるから、その関心度の高さを窺わせる。最初の評価は海兵隊の次世代ベストとして肯定的で防護性、生存性、快適性や拡張性に優れたMTVに対する隊員の称讃ぶりは冒頭のニュースのタイトルにも表われている通りである。

MTVの開発に当たり、海兵隊システムコマンドのグティエレス少佐は「海兵隊は多くの時間、エネルギーと金を投資し、世界最高の個人用防護装備を提供している」と述べている。しかしながら2年足らずの2008年2月29日、海兵隊司令官コンウェイ大將はイラクやアフガニスタンに従軍する海兵隊員からのMTVに対する多くの苦情を受け調達を停止した。

「重過ぎて非実用的で機動性に欠ける」「熱が籠もり暑過ぎる」「プルオーバー型で着用時に顔や耳を傷付ける」「ショルダーストラップ部分に肩付した銃床が銃撃時の反動で滑り顔を負傷した」「クイックリリースタブが引っ掛かりやすい」「その構成が複雑」など苦情は、支給が始まるやいなや起こったと言う。コンウェイ大將自身もイラクやアフガニスタンにて実際に着用して不満を感じていたとも述べている。

クインラン氏は元海兵隊のスカウト・スナイパーで2等軍曹として二度のイラクの自由作戦に従軍し、その現役中にデザインを考えていたとのこと。その経験をフィードバックしてSpartanシリーズからMCAV (Marine Combat Assault Vests) を経て完成形となったはずのMTVであったが、実戦に即した装備開発の難しさを浮き彫りにした形となった。当面は問題点の解決までの代替措置として、前回紹介したSPC (Scalable Plate Carrier) と改良型MTVを状況に応じて現地司令官裁量で使い分けられる様だ。補足するとすでにSPCは2009年前半に改良型が第2海兵師団第6海兵連隊第1大隊によってテストされている。



海兵隊4人でアンドリュウ兵長のMTVの調節を行なっている。トレーナーが彼等を指導する時間は、「ベストを組み立てて着用して」「サイズ調節」を行ない「メンテナンスの仕方」まで教える行程は、約3時間かかると言う。(撮影：イーサン E.ローク軍曹)

2007年3月29日沖縄キャンプ・フォスターにて海兵隊に納入されるMTV (Modular Tactical Vests) のパーツ構成のチェックを行なうTAG社のインストラクターであるドン・ザンズJr.氏。沖縄の海兵隊最初の1,000人分のMTVを納めると同時に装着やメンテナンスの指導に来日している。(撮影：イーサン E.ローク軍曹)



海兵隊の中には英語の苦手な兵士がいるようで、このような一見複雑な装備は実際に自分で組み立てて体験する事によって身体で憶えていく事が大事なのだ。(撮影：イーサン E.ローク軍曹)



01 MTV (Modular Tactical Vests)

警察や軍隊に戦術的なトレーニングを指導したり戦闘アイテムをデザイン提供する会社TAG (Tactical Applications Group) がMTVのデザインを設計し、同社とスバルタン防弾ベストを開発/製造したPPI社 (Protective Products International) がふたたび協力して2006年から支給を開始している。インターセプター防弾ベストOTV (Outer Tactical Vest) に対する不満を解決するため、海兵隊員の中から無作為で選んだ兵士にOTV改善レポートを提出させている。負傷した時に即座にベストを脱がせるリリース機能はもちろん、内臓を守るためのプロテクター&小型防弾プレートなどはOTV時は追加オプションだった物が最初から備わっている。MTVデザイナーのC.J.クインラン氏は、元海兵隊軍曹でスカウトスナイパーの経験を持ち、イラクへの2度の派兵も経験している。彼の戦闘経験がMTVデザインに大いに盛り込まれていると思われる。



防弾メーカーのPPI社 (Protective Products International) インストラクター、コンラッド・オーネラス氏がMTVの分解機能について講義を行なっている。ライフルの銃床をしっかりと受け止めるライフルホルスターが好評だったそうだ。(撮影：イーサン E.ローク軍曹)



Tactical Applications Groupのオーナーでもあり、クインラン氏。(撮影：イーサン E.ローク軍曹)



ブランドン・ニストロム兵長のMTVの装着を直接指導するクインラン氏。(撮影：イーサン E.ローク軍曹)



SIDE



BACK



NO COPY



偵察任務を得意とするFORCE RECON。当然敵に気付かれぬようにフェイスベイントを施して作戦を行なう。塗り方は部隊や戦地帯によりさまざまな色やパターンが存在する。

貧しい国が大量破壊兵器として使うものとして化学兵器があげられる。'80年代当時イラクは大量破壊兵器のひとつである化学兵器を実験に使用した前科がある。イラン・イラク戦争中にマスタードガス、サリン等の毒ガスを戦線に投入しており、同戦争の末期には自国のクルド民族反体制運動家達を毒ガスで制圧した経緯があった。また皮肉なことに当時のアメリカ政府はイラクを支持しており、湾岸戦争では化学兵器攻撃使用情報は想定内のことだった。(松原)



これにカマーバンドが付属すると6094の原形になる。



背面は四角いプレートまで収納可能なのは6094も同じだ。



LBT-6037A

1990年代、特殊部隊で活躍したLBT-1499防弾プレートキャリアにPALSテープを縫い付けたのがLBT-6037Aだ。90年代の防弾プレートやSAPIセラミック防弾プレートに対応した防弾キャリアで、後のLBT-6094シリーズへと繋がるデザインとなっている。主に空軍特殊部隊やSEALSが使用している。



両サイドの固定はファステックスだけとなる。



リアパネル裏側
水抜き用のホールが4個付いている。



フロントパネル
腹部のPALSループを見るとシングルM4マガジンポーチが最大4個装備可能。



フロントパネル裏側

156

157

【現用米軍装備カタログ】

The Equipments of the U.S. Force

特殊部隊の専用防弾プレートキャリア特集Part.1 ロンドンブリッジ LBT-6094モデル

●解説/撮影：Cボーイズ ●協力ショップ：LAZY CAT ☎03-3388-5696 (<http://lazycat.jp/>) ●撮影協力：海軍魂GET SOME (川勝多一郎)